

東日本大震災での当院の活動

DMAT

(現地DMAT本部での情報収集)



救護班

(宮城県亘理町中央公民館での夜間診療)



スクリーニング班

(福島県田村市でのスクリーニング)

平成23年3月11日14時26分頃、東日本でマグニチュード 9.0 の巨大地震が発生し、強い揺れや大きな津波が観測されました。

当院では、当日20時に福島県に向けて、DMAT（災害派遣医療チーム）が出動しました。

その後も、原子力災害の対応、避難所での活動、こころのケア等、多くのスタッフが被災地での活動を行いました。

福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。



「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の健康の道しるべとなるよう願いを込めて名づけられました。

東日本大震災の被災者支援のため、当院の職員が総勢58人（医師14人・看護師20人・放射線技師6人・薬剤師8人・事務職10人）が、被災地で活動を行いました。（平成23年5月末現在）。その活動の一部をご報告します。

3月11日 14:46頃 地震発生

DMAT

（災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム）

3月11日 20:00出発 → 翌日5:40 福島県立医科大学（現地 DMAT 本部）到着

活動内容

- ▶活動場所 福島県 二本松市等
- ▶現地 DMAT 本部にて、福島県内の災害拠点病院等の主な医療機関の被災・患者受け入れ状況を、衛星携帯電話を使い調査した
- ▶自衛隊や他の DMAT と共同で、患者や避難者の放射線スクリーニング検査※や避難所への移送等を行った

（※放射線スクリーニング検査とは…放射性物質の身体表面への付着を確認する汚染検査）

3月14日 帰院



スクリーニング班

第1班 3月13日～16日

活動内容

- ▶活動場所 福島県田村市
- ▶避難所でのスクリーニング検査を行った



第2班 3月15日～18日

活動内容

- ▶活動場所 福島県二本松市・川俣町
- ▶避難所でのスクリーニング検査を実施した
- ▶被災地の病院から搬送された患者のトリアージ※を行い、救命措置や病院への搬送を行った

（※トリアージとは…人材・資源の制約の著しい災害現場において、最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決定すること。）



※その後、更に1班を派遣しました



◀スクリーニング班が持参したサーベイメータ（携帯用放射線測定機）各種
中央は放射能表面汚染測定機GMサーベイメータで体に近付けて測定をする装置です。
左右はX線やγ線等の外部放射線による被ばくを知るために空間放射線線量（シーベルト / 時間）を測定する装置です。



◀スクリーニング班は全員ポケット線量計を身につけ被ばく量の把握をしながら、活動しました。

救護班

第1班 3月20日～23日

活動内容

- ▶活動場所 宮城県亶理町
- ▶避難所の学校の一室で被災者の診察を行った
- ▶風邪症状、血圧が高い、眠れない、「常備薬が無くなったため処方してほしい」の訴えが多くありました。

※その後、更に6班を派遣しました。



こころのケアチーム

第1班 3月27日～31日

活動内容

- ▶活動場所 宮城県仙台市
- ▶住民のこころの健康に関する診療・相談を行った
- ▶不眠・不安・抑うつ・体調不調などの訴えが多くありました

※その後、更に2回職員を福島県会津若松市に派遣しました。



被災地での活動を振り返って

スクリーニング班（活動日3月13～16日 又野医長）

当初の緊急被ばく医療に求められているものは2つありました。1つは汚染を伴う傷病者の評価～搬送先の選定～専門の治療、もう一つは避難所等でのスクリーニング検査でした。我々は福島県田村市で後者に携わり、2日間で約1300名のスクリーニングを行いました。当時は、それを受けないと避難所に入れないという状況が生じ、困っている方が多く見受けられる一方、放射線や放射性物質に強い不安を抱いている方は皆無でした。

救護班（活動日3月20～23日 石田主任医長）

1日目は宮城へ移動、夜到着して引継ぎを受ける。2日目午前逢隈小学校、午後は逢隈中学校に移動、夕方から宿泊所で夜間診療を行った。3日目は逆に逢隈中学から逢隈小学校に移動して診療を行った。その夜次のチームに引継ぎを行い帰路についた。

多くは風邪・不眠・常備薬の紛失で薬の処方を、入院の必要な方は救急車を依頼し受入れ病院を選定していただきました。医薬品・診察器具の搬入搬出が大変でした。

避難所での救護班として活動する際には以下の5つの心構えを持って望むことが重要であると感じました。①挨拶を忘れない ②患者家族にはナラティブに対応し全てを受入れる（対話を重視する医療）③受診者には「他に何かありませんか？ お大事に」を必ず声掛けする ④地元スタッフも被災者であることを忘れない ⑤自分自身の健康管理をしっかりする。



現在も、政府の原子力災害現地対策本部・Jビレッジへの医師派遣など、支援を継続しています。被災地の一日も早い復興を心より祈念するとともに、今後も、被災地の医療ニーズに応じ、継続して支援を行ってまいります。

みんなで力を合わせて 一元気と希望をあなたに届けます

5月12日、看護の創設者であるナイチンゲール女史の生誕を記念して「看護週間行事」を開催しました。



内 容

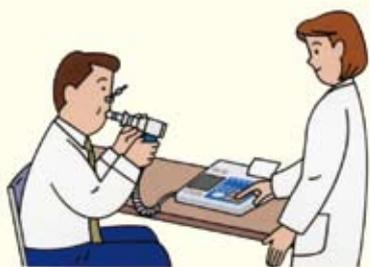
- ★講演 「災害時の健康管理法」
「家庭でできる脳トレーニング」
- ★看護師らによるコンサート 等

今年度は東日本大震災の発生を受けて、被災地の方々に「力を合わせて一緒に乗り越えよう」の思いを込めて、当院看護師らによるコンサートを行いました。コンサートでは、白衣姿の看護師自らがギター、サクソ、ピアノを演奏したり、歌をうたったりしました。最後は「上を向いて歩こう」「ふるさと」を合唱し、会場からのアンコールの声を受け、「夜空ノムコウ」を合唱しました。

アンケートでは「心に響く曲や歌声で感動した」「県立病院の看護の心を感じた」などのうれしい感想をたくさんいただきました。

多くの皆さまにご参加、ご聴取いただき、ありがとうございました。

「肺の日」記念公開講座 ～あなたの肺は何歳ですか？～



日 時

平成23年9月4日(日)

14:00～16:30

会 場

AOSSA 6階 地域交流プラザ

内 容

講演会「呼吸器疾患の診断と治療」
質問コーナー

※当日14:00～16:30
AOSSA1階アトリウムにて
『無料』で肺年齢の測定が体験
できます。
皆さん奮ってご参加ください!

主 催

日本呼吸器学会 北陸支部

お問合せ先

福井県立病院 地域医療連携推進室
電話番号 0776-57-2900

新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

新聞	「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)
テレビ番組	「おはようふくい730」(FBC/日曜)
〃	「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)
〃	「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)
広報誌	「グラフふくい」(毎月10日発行)

※ラジオやインター
ネットでも提供中。

お問い合わせ

県広報課

0776-20-0220



健康長寿の福井



発行 福井県立病院

福井市四ツ井2丁目8番1号 TEL:0776-54-5151 FAX:0776-57-2945

ホームページもご覧ください

<http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/>